



レッスン2 教科書から広げる：「人権について考える」

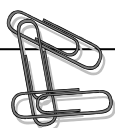
- 目的 教科書を通じて、人権問題と、平等の大切さ、共生社会の在り方について考える。
- 手法・準備 教科書（中学社会「公民」）
- 所要時間 50分
- 展開 それぞれの教材で触れている課題について理解するとともに、日本国憲法で保障されている基本的人権と関連させて考える。
その課題について、どう変わってきたのか、それはなぜか、どんな取組があったのか、自分たちとのつながりについて考える。

<参考>教科書（中学社会「公民」）に掲載されている人権問題（一例）

項目（見出し）	教材例	人権問題	出版社
等しく生きる権利 - 部落差別をなくすために - アイヌ民族への差別 - 在日韓国・朝鮮人差別	「なぜ、なぜ、なぜ」（北九州市の高校1年生が書いた詩） “昔から伝わるアイヌ民族の祭り”（写真） “全国高校ラグビー大会に初出場した大阪朝鮮高校”（写真） “国立大学の受験資格が広がることを報じる新聞”（写真）	同和問題 アイヌ民族 在日韓国・朝鮮人	大阪書籍
人類の問題としての人権	「国際的な人権保障が求められるスラムで生活する子どもたち」（写真） ズームイン「児童（子ども）の権利条約」（解説）	子ども	大阪書籍
人権と日本国憲法 - 人権を考えよう	「ちがいのちがいの」（カード1～12、進め方、ワークシート、 「あってよいちがいの」と「あってはよいちがいの」） 絵「2頭のロバ」（物語の続きを考える）	子ども、男女平等、外国人、高齢者、等	東京書籍
人権と共生社会 - ともに生きる 読み物資料	“義足の三壘手と義肢装具士”（新聞記事） “差別をのりこえて - 詩 お姉さんへ”（中学生） “友達が教えてくれたこと”（中学生作文） “アメラジアン”（S・マ・フイ重松『アメラジアンの子どもたち』より）	障害者 同和問題 在日韓国・朝鮮人 沖縄の文化	東京書籍
平等な社会を創る - 差別からの解放	“ワシントン大行進でのキング牧師”“「...わたしには夢がある...」（写真と演説より） “アイヌ語弁論大会「イタカン ロー」”（写真） “韓国籍の女性が教員採用試験に合格したことを伝える新聞”（写真）	人種差別 アイヌ民族 在日韓国・朝鮮人	教育出版
社会を知る - 共生をめざして	“クラスで人権問題に取り組む”（写真と解説） “文字を知るよこび”（文字をはじめて覚えたある女性の作文） “水平社発行の機関紙「水平」の創刊号”（写真） “国会に響くアイヌ語”（国会でアイヌ語で質問する萱野さん） “新たな一歩のはじまり”（広島平和祈念公園の外にあった韓国原爆犠牲者慰霊碑が公園内に移されたこと。サッカーワールドカップの日韓共同開催”（県広報紙、写真）	ハンセン病 同和問題 アイヌ民族 在日韓国・朝鮮人	教育出版
平等権について考える	“男女平等をめざして”（写真と解説） “ハンセン病元患者の長いたたかい”（写真と解説） “心のなかにある差別 - 苦しみをのりこえて”（「徳島新聞」掲載の記事より）	男女平等 ハンセン病 同和問題	清水書院

私たちの生活と政治 人権を守る心は国境をこえて	“マーティン＝ルーサー＝キング牧師の演説より” “子どもが訳した「子どもの権利条約」”	人種差別 子ども	清水書院
現代社会に残る差別 - いまなお残る差別 - 在日外国人への差別 - さまざまな偏見・差別	“水平社宣言（一部）” “苦渋のチマ・チョゴリ隠し”（写真と新聞より） “ハンセン病の元患者への偏見”（新聞記事と解説）	同和問題 在日韓国・朝鮮人 ハンセン病	帝国書院
人間尊重と平等 憲法で保障された基本的人権 差別のない社会の創造	“勝訴を喜ぶ元ハンセン病患者と支援者”（写真と新聞より） “部落問題解決の課題”（同和対策審議会答申 一部の要約） “視線の温度”（松井進「見えない目で生きるということ」より）	ハンセン病 同和問題 障害者	日本文教出版
私たちの社会に潜む差別 法の下での平等	“「外国人お断り」の店”（コラム） “保育所で働く男性”（写真と解説） “身体障害者に対して行われた不合理な差別の記事”	外国人 男女平等 障害者	扶桑社
差別をなくしていく努力 現代社会に生きるわたしたち（章のとびら）	“部落差別をなくしていくために”（解説） “ボクにしかできないことがある「五体不満足」乙武洋匡”（写真と解説）	同和問題 障害者	日本書籍新社

上記は一例。各教科書とも他に多様な課題についてさまざまな資料を掲載しているので、これらを活用しながら考えられるような授業の工夫をすること。



参考 「中学校学習指導要領 - 社会」より

[公民的分野]

1 目標

(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。

2 内容 - (3) - ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、...

進め方：

使用教材 「なぜ、なぜ、なぜ」(北九州市の高校1年生が書いた詩)
 (または) “差別をのりこえて - 詩 お姉さんへ”(中学生)

区分	学習活動・学習内容	指導者の働きかけ・留意点
導入	最近のニュースより	出来事を分かりやすくクイズ的に発問しながら、興味をもつようにする。
展開	<p>上記の教材の読み合わせ。</p> <p>基本的人権のうち、どういう権利とかわっているか？</p> <p>これを書いた人は、どんな思いで書いたのか？</p> <p>作者は、何を訴えているのだろうか？どうしたらいいのだろうか？</p> <p>教科書本文より、この問題に対してどんな取組や法などができたか、調べてみよう。</p> <p>同和問題について解説(下記資料)</p> <p>この人の悩みを解決するために大切なことは何だろうか？</p> <p>これと似たような不合理なこと・悩みが、自分や身の回りにないだろうか？</p> <p>それらを解決するために、法や取組がある。そして、必ず、問題は解決できる。</p>	<p>基本的人権(平等権、自由権、社会権)と結びつけて考えさせる。</p> <p>導入のニュースと基本的人権との関係をおさえる。</p> <p>単に知識としてではなく、共感をもてるようにする。</p> <p>その願いを受けとめさせる。</p> <p>問題の解決に向けた法(同和対策審議会答申、同和対策事業特別措置法、等)や、取組(環境改善、差別を許さない教育、等)不合理な問題であるということと、解決できるということに気づかせる。</p> <p>身の回りの出来事と結びつける。</p> <p>例えば、学校において不合理なことを改革するために生徒会等でも取組ができることに気づかせる。</p>
まとめ	本時について、子どもの発言等を引用しながら、上記のキーワードを活用して、まとめる。	



教師用資料 同和問題とは

明治時代になって、封建社会の身分制度は廃止されましたが、武士・農民・町人とは別の身分とされていた人たちが居住した地域の出身・在住であることを理由に、現在でも、嫌ったり、避けたりするという問題が続いています。これが同和問題で、日本にだけある人権問題です。

身分制度が廃止されたとき、十分な対策がとられなかったため、その後も差別意識が残されました。そして、差別的な言動に対して、それを指摘することなく、まわりに話を合わせてしまうという態度もつくられています。

最近では、多くの人が、こうした差別を近い将来になくすることができるように考えているようになっています。

一人一人が、まわりにあわせたりして自らの態度を決めるのではなく、生まれた場所や住んでいる場所を理由にした差別を許さないという考えを、自らの行動に結びつけていくことが必要です。

『ゆまにてなにわシリーズvol.20』(大阪府人権室 H18.3)より